

2022年11月24日

アルジェリア、ジャネット県(Djanet)の現地情勢について

英 隆行

先般タッシリ・ナジェールの先史壁画調査旅行に参加しました。ジャネットの状況が大きく変わっておいりましたので、ご参考までに見聞した内容を下記の通り報告致します。

期間：2022年10月15日～11月5日

プラトー： 10/17-26

タドラール：10/28-11/4

旅行社：Fliegel Jezerniczky Expeditions, Newbury, UK

現地オペレーター： Essendilène Voyages

参加者：15名

日本、フランス、イギリス、イタリア、アメリカ、カナダ、ハンガリー、ベルギー

アルジェリア観光ビザ取得

毎回観光ビザ取得に時間と労力を費やしてきたので、旅行社（イギリス）は3か月前の7月中旬より準備開始。アルジェリア大使館領事部に観光ビザの取得について問い合わせると、「日本の旅行代理店からの申請以外受け付けない」との返答。領事部で紹介してもらった旅行社2社に問い合わせると、「自社が手配した旅行以外は取り扱えない」。再度領事部に事情を説明すると、「アルジェの外務省の許可が出てから検討する」との回答で、電話番号を伝えて連絡を待つこととした。

過去のビザ取得では国によっては2か月掛けても間に合わなかったケースもあったが、今回のビザ申請は驚くほどスムーズに進んだ：

- ・ 8/2 現地オペレーターがジャネット県観光局に申請
- ・ 8/9 ジャネット県からアルジェの外務省に送付
- ・ 8/12 大使館領事部から電話連絡：「外務省の許可が下りたのでビザ申請してよい」

他の国でのビザ取得もほとんどがスムーズに運んだがイギリスのみ直前まで時間を要したようだった。

ジャネット(Djanet)

2013年1月のテロ事件以降、タッシリの中で主要な先史壁画が集中する主力観光地のプラトー(Plateau=台地)が閉鎖された。プラトー地域は従来よりニジェール・リビアとの国境地帯で不法越境者も多く、リビア国境まで約40kmにあって山岳地帯のため国境警備が困難なことからの決定であったものと推測される。タッシリでもイヘーレン(Iheren)などリビ

ア国境まで 150km 程度のタジェラヒン (Tadjerahin) 地域、タッシリ台地の南側にあって見通しが良く国境警備の問題の少ないタドラール(Tadrart)砂漠は入域許可が出た。しかし、日本を含めて各国外務省がアルジェリア南部全域を危険地域と指定したため、地域経済の 80%程度を占めるとされていた海外観光客が激減した。

2013 年 11 月と 2014 年 11 月にジャネットを訪れたが、観光客は非常に少なかった。現地旅行社にプラトーへの入域許可を軍と交渉してもらった。2013 年は拒絶されたものの 2014 年は非公式に認めてもらい、「サハラに眠る先史岩壁画」で展示した写真を撮影することができた。この年唯一の例外だったようで、人の足跡がまったくない状態だった。

観光収入に大きな打撃を受けたジャネットは活気を失っているものと思っていたが、想像に反して小さなオアシスの町は大変な様変わりであった：

- ・ 空港道路など新しい道路が縦横に整備されている。バンプがないので評判が良い。
- ・ 新築の公共建築物が多く、建築中の建物も多い。建築ラッシュの様相。
- ・ 町の外に大きな採石・砕石場、大型建機の駐車場
- ・ コンテナによる仮設ではあるが広大な軍駐屯地

人口は 15-16,000 人程度で変わっていないと聞いたが、実際には軍人を除いても相当増えている印象を得た。ジャネットがイリジ県から独立して県(ウィラヤ)となり、警官や公務員も増えているとのことだ。

観光収入を失ったジャネットでは、密輸や金探しに関わる人が増えたとのこと。密輸は無関税状態のリビアで仕入れてアルジェリアで売るのが、チャド北部でも同様の話を聞いた。金については、ニジェール北部のアルジェリア国境近くで金が発見されて金堀りがブームとなっている。その後アルジェリア側にも金脈が伸びていることが判明して、金探しをする人も出てきたが、当局に厳しく取り締まられているとのこと。

密輸や金探しが厳しく取り締まれる一方で、道路や公共建築物などの公共投資で地域経済が支えられてきたものと推測される。また、国境警備ではタッシリの山岳地帯がネックになっていたが、軍の駐屯が大幅に強化されている様子が窺えた。過去 3 年間はプラトーへの入域許可を国内観光客にのみ与えてきたが、今年より海外観光客にも門戸が開かれた。軍による国境警備に自信を持ったものと推測する。現地旅行社のオーナーによれば：

- ・ この数年間でアルジェリア北部からの観光客が着実に増えてきた
- ・ 当地は当局から危険なレッドゾーンとされてきたが、突然グリーンゾーン宣言が出た
- ・ 今年は外国からの観光客が急増している
- ・ 今年 12 月 18 日よりバリージャネットの直行便が復活する

- ・ プラトーは今年から外国人にも開かれたが、10名以上のグループが条件とされてきたが、8名、6名と条件が緩められてきている

今回の旅行中、プラトーでは海外観光客2グループと遭遇した。また、「白い巨人」など有名壁画のあるセファール(Sefar)では国の観光 PR 目的でドローン撮影が行われていた。観光ビザ取得の迅速化も国が観光に力を入れたことを示しているのかも知れない。

今回は、タッシリ南側のタドラール(Tadrart)砂漠も車で回った。この地域は車で移動でき、国境警備の見通しも良いことから、テロ事件後も国境付近でも入域が認められてきた。今回は、軍が最近敷設した未舗装道路を見た。軍の国境警備強化が窺えた。

日本の旅行社では、西遊旅行がタドラールツアーを今年から再開している。プラトーのツアーはサハラ・エリキ(Sahara Elik)がこの12月に再開する。西遊旅行も来シーズンにはプラトーツアーを再開すると聞いている。

軍の駐屯が強化されていることが強く感じられ、プラトーやタドラールで旅行客と遭遇することも多く、滞在中不安を感じることはなかった。パリからの直行便など観光客の増加も予想される。外務省危険情報では、ジャネットは現在レベル3の渡航中止勧告地域となっているが、近年事故や事件もなく見直しても良いのではないかと感じた。

以上